人物乃至国民の一人として、腹の言うことは、いつぱいありますが、「個人的に」腹が言うということは、あまりなくなりました。近ごろは人並以上に怒りつぽい人物だつたのに、どうしてこうも寛容な人物になつたのか、と考えてみると、根底には、戦後からここ数年にかけての間に、形を成してきた私の人物観があるようです。年齢の所為というのとは少し違うように思われます。だとすれば、腹の言うことがなくてこまる、とこぼすこともあるまいかと考える次第です。